

#### 4. 本日のまとめ

##### 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2006実行委員長 長谷川和夫

ご紹介いただきました、長谷川でございます。

今日は多くの方に参集いただきまして、心から感謝いたします。100人会議議長でいらっしゃる堀田力先生には町づくりキャンペーンの地域活動推薦委員長まで務めていただき、本当にありがとうございます。また関係各位の方々にはこの集まりのために大変な努力をしていただいたこと、ここに感謝いたします。



第1部では、本人会議とか認知症サポーター100万人キャラバンの活動、ケアマネジメントの推進活動、また100人会議の会員からのご報告がまとめられて、非常に多方面にわたる活動が紹介されたと思います。中でも本人会議は、今回日本では初めて行われたかと思いますが、その中で最後に認知症の方ご本人が、「わたしたちはやはり二人三脚でいかなければならないんです」、とか「支えが必要なんです」という言葉を出されましたが、非常に私の胸をうちました。まさにその仕組みを作っていくという活動が「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーンなのですが、今年度は47の応募から推薦委員会を経まして、賞をうけられましたところには推薦委員や関係者が出かけ、現地を訪問させていただきました。たいへんご迷惑であったかと思いますが、そういう仕組みをつくってしっかりと選考させていただいたかと思えます。

「認知症を知る」といいますが、今日話をうかがっていて私は、認知症とはなにかを知ることもちろん大切ではありますが、もう一つ、認知症をもった人を理解する、認知症をもっている人がどんなところもちどんな不自由を体験していらっしゃるってどういう支援を求めておられるのか、ということを知ること、とても大切なことではないかと、認識をあらたにいたしました。

認知症になっても安心して暮らせる町づくりとは、これは、「わたし」が認知症になっても安心して暮らせる町づくりであり、「あなた」が認知症になっても安心して暮らせる町づくりであります。「だれか」、というようなことではなくて、当事者は「わたし」「あなた」であろうかと思えます。これは厚生労働省の達見だと思えますが、そういうキャンペーンをここまでやって参りました。しかし、一つ課題がございまして、認知症というのは、特にアルツハイマー病というのはそう簡単には降伏しない病気でございます。一時的な思い込みとか安易な関わりだけでやっていく場合には、必ず挫折したり、いろいろ苦勞をするのではないかと思います。もちろん、このことはみなさん、ご承知のことでございますが、私が申し上げたいのはいろいろな課題があるということでございます。ことに財政的な課題というのは大きいのではないかと思いますし、競争社会という日本の社会の中でこうしたやさしさとかいたわりとか、そういうことは忘れがちな社会に私たちは居るわけです。そういう厳しい面、逆流の面、逆風がときには吹く面、ちょっと油断したらすぐ後戻りする、そういう油断のならない社会にいても、ひとつ念頭においていただきまして、ぜひ来年度にむけて、さらに新しい装いをもちながら、発展させていきたいと念願しております。

私ども認知症介護研究・研修東京センターは、ほかの仙台ならびに大府のセンターの協力をうけまして、一所懸命務めさせていただきましたけれども、一緒にやっていただいている団体としまして、認知症のひとと家族の会、もう一つ、住友生命保険相互会社の健康財団から支援と人材をいただいておりますことも申し添えまして、東京センター長として、あるいは町づくりキャンペーン実行委員長として、感謝申し上げます。

本日はほんとうにありがとうございました。